

*** Leitz 万能顕微鏡発見**

2009年8月は岡山天体物理観測所から天文情報センターに異動になった長山君が天文情報センター・アーカイブ室で異動研修を行った月である。長山君との作業で、基線尺倉庫から表記の万能顕微鏡を発見した(写真1)。この顕微鏡は万能顕微鏡とあり、ドイツ製である。着いていた荷札には、「昭和55年6月9日 ライツ万能顕微鏡」とある。恐らく倉庫に入れた日付であろう。残念ながらこの顕微鏡は対物レンズ、接眼レンズ共に行方不明で完全な姿はしていない。そして、何の目的で使われていたのかも不明である。



写真1 Leitz 万能顕微鏡

メーカーの名盤の刻印が写真 2 である。基線尺倉庫に置かれていた様子から、恐らく天文時部が所有していたものと思われる。写真 1 でみられるように構造はなかなか複雑で、照明のランプが後方に 2 個着いており、接眼部は双眼で、載物台が回転できるようになっている(写真 3)。天文時部所有ならば PZT 乾板の測定に使われていたのではないかと推測されるが、星像の座標の読み取り用にはなっていない。



写真 2 名盤の刻印



写真 3 回転する載物台

取扱説明書がなく、使用方法もよく分からないがいろいろな工夫がなされており非常に複雑である。特に下からの照明機構（写真4、写真5）が複雑だ。



写真4 下からの複雑な照明機構



写真5 下からの複雑な照明機構 その2

写真5のAp. 1.40と書かれたレンズは光路から出し入れが出来るようになっている。

また、この万能望遠鏡は後方から照明する機構が2箇所あり、その照明のためのトラン

スが2個着いている（写真6）。



写真6 後方からの2個の光源と2個のトランス

写真7、写真8はトランスの名盤である。



写真7 トランスー1



写真8 トランスー2

このLitz 万能顕微鏡については詳細が全く分からない。何の目的に使われたものかなど天文台 0B に訪ねてみようと思っている。この記事をお読みになった方でなにか情報をおもちの方はぜひお知らせいただきたい。